

妊娠中の母親のソーシャルサポートレベルと3歳時の子どもの発達との関連 —子どもの健康と環境に関する全国調査—

今西洋介

ソーシャルサポートは母親と子どもの身体的・精神的健康を維持するために不可欠であるとされています。しかし、妊娠中に母親が受けたソーシャルサポートが子どもの発達にどのような影響を与えるかのエビデンスは限られています。今回の研究では、妊娠中に受けた母親のソーシャルサポートレベルが3歳児の発達遅滞のリスクに関連するか検討しました。本研究の結果は、専門誌 (Environ Health Prev Med. 2024;29:18) に発表しました。

本研究ではエコチル調査に登録された10万組の母子のうち、68,442組を対象に3歳まで追跡を行いました。母親のソーシャルサポートは4つの項目を評価し、足し上げた総点を五分位にして分類しました。発達遅滞のリスクはASQ-3を用いてコミュニケーション、粗大運動、微細運動、問題解決、個人-社会の各5領域で評価しました。妊娠中に母親が受けたソーシャルサポートと3歳児の発達遅滞リスクとの関連について多変量ロジスティック回帰分析を行いました。また、stepwise法により3歳児の発達遅滞のリスクとしてどの因子がどう影響を及ぼしていたかも検討しました。交絡因子は母体年齢、母親の最終学歴、父親の最終学歴、世帯収入、パートナーとの同居、他の子供との同居、在胎週数、出生体重、産後うつとしました。

妊娠中に母親が受けたソーシャルサポートは3歳時の子どもの発達遅滞リスクの低下と関連しました(図1)。これらの機序としては複数考えられました。妊娠中のストレス性の高いライフイベントは妊娠中のうつ病と関連していますが、ソーシャルサポートの多い群ではその関連が認められませんでした。ソーシャルサポートは母親に心理的幸福を与え、子どもの家庭での言語習得環境を向上させた可能性があります。本研究の限界点として、(1)子どもの発達評価は養育者の自己申告に基づいていること、(2)保育園の通園状況は曝露因子が出生前のソーシャルサポートのため交絡因子として評価していないこと、などが挙げられます。

妊娠中に受けた母親のソーシャルサポートは3歳児の発達遅滞リスクの低下と関連していました。本研究結果より、妊娠中の母親を社会的に支援する事は子どもの発達にも意義があることが示唆されました。

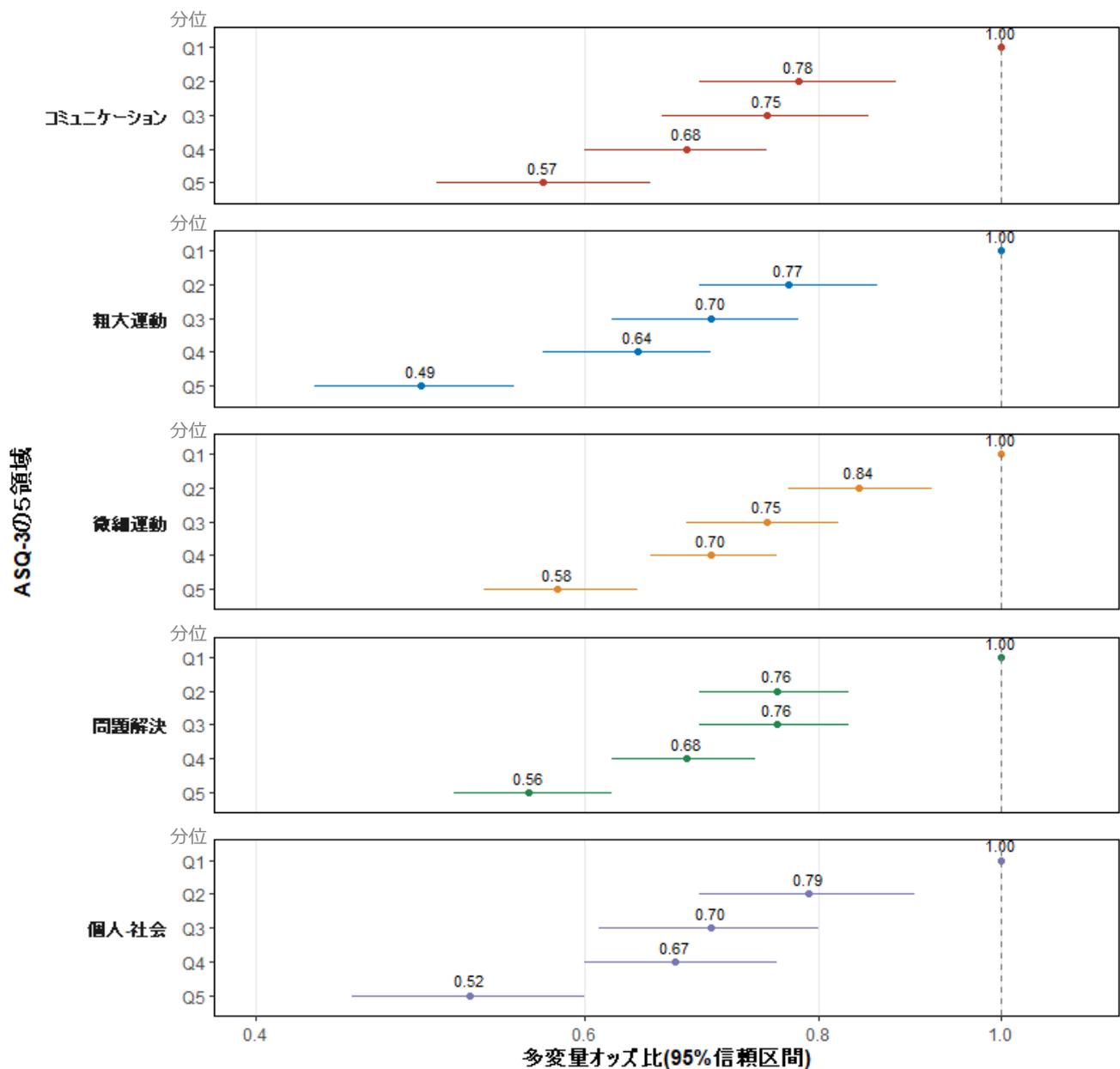


図 1: 妊娠中に母親が受けたソーシャルサポートレベルと 3 歳児の発達遅滞との関連

Imanishi Y, et al. The association between maternal social support levels during pregnancy and child development at three years of age: the Japan Environment and Children's Study. *Environ Health Prev Med.* 2024; 29:18.